

子ども司書講座 めざせ！キッズライブラリアン

新聞

第5号

本の選書にチャレンジ！



第5回目の講座は、本の選書にチャレンジしました。選書とは、言葉通り、本を選ぶことです。

普段、皆さんが街の本屋さんで本を買うときも、選んでいますよね？実は図書館も同じように、選んで購入しています。それなら簡単！と思うかもしれませんが、「選ぶ」ということは難しいことなのです。なぜ難しいのでしょうか？

日本で1年間に出版される本は約7万5千点もあります。（出版年鑑より）1日に約2000冊の新しい本が販売されていることになりました。図書館では、新しく出版された本だけを選ぶのではなく、現在も入手可能な本も選びます。合わせると数十万点にもなります。このように沢山の本の中から、図書館にふさわしい本を選ぶことは非常に難しい作業なのです。では、図書館はどのように本を選んでいるのでしょうか？購入の方法は様々ですが、皆さんが「読みたいと思う本」や逆に「読んでほしいなと思う本」を中心に選んでいます。そうして選んだ本を図書館司書が話し合って、最終的に購入する本を決めます。

図書館には、どのような本を選んで購入するのか、あるルールを決めています。選書方針といえます。

子供向けの本ばかりではいけないし、読み物ばかりじゃ駄目です。他にも学習に役立つ本は数が足りているのかな？同じ本はないかな？など、いろいろなバランスも考えています。

「面白そうな本はあるかな？」と考えながら選んでいた子もいたけど、「こんな本は図書館にはないよね？」「友だちにも読んでほしいなあ」という考えで選んでくれた子もいました。「選ぶ」という作業は難しいけど、楽しいことや読む楽しみもあります。

皆さんにはそれぞれ5冊ほど選んでもらいました。図書館で購入・受入をして他のお友だちにも読んでもらえるようにしたいと思います。



沢山の本を選びました！！

皆さんに行っていただいた選書は見計らい選書というものです。業者さんが沢山の実物の本を持ってきて、その中から実際に読んでみたりして選ぶことです。今回、「十社の会」にご協力をいただきました。ありがとうございます。